

※検査の説明

子宮頸癌細胞診：子宮の入り口の癌を調べる検査です。

子宮頸癌の原因は、性交によるヒトパピローマウィルスの感染であることがわかっていますので、一度でも性交経験のある方は、毎年受けて頂きたいと思います。

経膈超音波検査：子宮や卵巣の形を見る検査です。

この検査により、子宮筋腫や卵巣腫瘍が見つかることがあります。

通常の子宮癌検診では卵巣の情報は全く得られません。この機会に超音波検査を受けられることをお勧めします。

子宮体癌細胞診：子宮の奥の内膜にできる癌を調べる検査です。

生理が定期的にある間は生理によって子宮内膜が剥がれ落ちますが、生理がなくなると（閉経）、子宮内膜の入れ替わりはほとんどありませんので、内膜から癌が育つ可能性があります。

閉経後の方はぜひ、子宮体癌細胞診検査も併せて受けて頂きたいと思います。

乳房の視触診：超音波検査やマンモグラフィーの前に、ベッド上で乳房を医師により触らせていただきます。

女性医師による触診ですので、リラックスして受けていただければと思います。

乳房超音波検査（エコー検査）：乳線の多い人（硬いおっぱいの人）や20代の方にお勧めの検査です。痛みのない検査です。

当院の超音波検査機器はエラストグラフィーといって、腫瘍があった場合にその腫瘍の硬さや性質がわかる機能を備えております。

従来のエコー機よりも、より診断能が上がっております。

マンモグラフィー：乳房を挟んで撮影するX線写真です。乳房を挟む際、痛みを訴えられる方がいらっしゃいます。軟らかい乳房の方にお勧めの検査です。

50歳以降の方は1方向でとられることが多いです。エコー検査と併用されることをお勧めします。